

晴天の霹靂^{へきれき}

三年前の夏七月、我、癌マーカーの数値の異常見つかかりて、精密検査の爲、病院通ひを余儀なくせられたり。医師は「もしも膵臓癌ならば余命三ヶ月なり」と告げたり。医師はあくまで、最悪の場合を想定して我に説明されたるなり。これ「インフォームド・コンセント」つまり「治療にあたり医師から必要なる情報を得る権利」のことなれど、本人にとりては、死の宣告を受けたが如くに響きけり。健康のみ取り柄なりと日ごろ豪語しきたる我なれば、突然の宣告に、夜も眠れぬほど動揺せり。表向き冷静を装ひしも、我が頭の中は凍り付きたり。正に晴天の霹靂。心乱るるまま一ヶ月が過ぎたり。癌の余命宣告を受くるほど深刻なることはなからむも、此の間、強烈なる恐怖心にさらされし我が心臓は悲鳴を上げたり。その心労のゆゑにか、ある朝外出せんと歩み始むるやいなや突然、わが胸、悪魔の大きな手にて握り潰されたるがごとき激しき痛みを襲はれたり。痛みを堪え近所のクリニックの玄関まで辿り着きたれば、その場に倒れこみ「胸が～」と訴へし後我が意識は遠のけり。即大病院へ救急車にて運ばれそのまま緊急手術となりたり。急性心筋梗塞なり。医師の迅速なる対応のお陰にて、幸いにも一命は取り留めたれど、術後ICU室にて酸素マスクと心臓ペースメーカーと点滴の管に繋がれ、天井のみ仰ぎて体を動かすこと能はず。トロトロと眠り続けること三日間。その間、我が頭の中にリフレインせるは懺悔文なり。「ガシヤクショゾウ

ショアクゴウ カイユムシトンジンチ ジュウシンゴイシショショウ イッサ
イガコンカイサンゲ（我昔所造諸悪業 皆由無始貪瞋痴 從身語意此所生 一
切我今皆懺悔）」と。なぜならん。我が深き意識の底に薫習^{くんじゅう}せる何かの沸き上が
り来たらんか。我が人生の中懺悔せねばならぬ事多々あれど、このリフレインを
子守歌のやうにして唯々昏々^{ただただこんこん}と眠り続けたり。雲の上なる心地よき眠りなりき。
看護師さんの声遠くより聞こえ来て「大変お疲れのやうで良く眠られましたね」
と声をかけられ、我目覚む。

よしんば、あの時病院まで辿り着けなくんば、わが命絶ゆることにあいなりた
らむと想像せらる。人間は六つ（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上）の苦し
み迷ひの世界を永遠に生まれ変はり死に変はりし続くと聞く。人は亡くなる
と中有の旅、死出の山路を超え、三途の川を渡る。この世の行ひに因りて三途の
川の流れの厳しさも異なるとか。向かう岸につかば、待ちうけたる奪衣婆^{だつえいば}に衣服
を身ぐるみ剥ぎ取られ、懸衣翁^{けんいおう}にて罪の重みを測らるるなり。大きな門をくぐ
らば大広間の真ん中に座す閻魔大王^{えんまだいおう}の裁きを受くるなり。浄玻璃^{じょうはり}の鏡には生前
犯せる悪事が映し出され、如何なる地獄に落ちるか決定さると聞けり。我も幼き
頃、祖母より「嘘をつくと閻魔様に舌を抜かるるなり」と聞かされたり。地獄に
は八つの地獄があると言ふ。殺生の罪で落ちる等活地獄^{とうかつ}。衆合叫地獄^{しゅうごう}に落ちるは
不邪淫の罪を犯したる者なり。愛欲にかられ、刀葉林^{とうようりん}なる樹木の上に居る美女を

追ひかけ、剣の葉をよじ登り体は傷だらけになりたれど、自ら止むることあたはず。その攻め苦に合ふ事二千年と聞くなり。これ人間の業のすさまじさなり。最下層の地獄に生まれ変わる者は、五逆（父、母、祖父、祖母を殺すこと）・謗法（佛法をそしること）なる大なる罪を犯したる者なり。阿鼻城という鉄の城より灼熱の炎噴き出し、大鬼らに切り刻まれ、熱湯に漬けられ、他の地獄の千倍もの辛さにて永遠に抜け出すこと能はず、唯々強烈なる炎に焼かれ続けるなりと聞く。この世界が終はるまで休むことなく続く故阿鼻、無間地獄といふなり。

この地獄の話の子供時代に聞きたれば、誰しもあまりの怖さに、我も良き人間であらむと心に誓ふなり。然れども、これは死後の行き先のみならず。この世の日常の暮らしの中、欲に塗れ、十善戒をば守らねば、他より罰を受くる前に、自分自身の心持ちは地獄と化するなり。時として奈落の底に突き落とされたる不安感や焦燥感を感じ、ある時には地獄に落ちたるかの如き怒りや悲しみに沈み、また極楽の如き思ひに浸り、我が我に振り回されて暮らすこと日常なり。この現世に極楽と地獄が表裏一体にて存在するなり。

而して、錫杖を打ち鳴らし、我らの意の如くに願ひ叶へむ如意宝珠を右手に持ち、真っ赤に燃えさかる地獄の底まで救ひの御手を差し伸べ来る地蔵菩薩様も、閻魔大王様も、全てこの宇宙の真理としてあらしむる大日如来様のお働きなりと信心するなり。いたづらに過去に起きし晴天の霹靂に囚はるることなく、明

日に生きる力を奮ひ起こし、前を向きて歩み行かん。落ちてこそ見ゆる光かな。

合掌